

経営学研究科

01 経営学専攻

Business Administration

(1) 修士課程

● 目的

経営学研究科は、本学の建学の理念に基づき、経営学の分野において学術研究を推進し、社会的にまた国際的に貢献することのできる高度な研究者・専門家、専門的職業人を育成することを目的とする。

● 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

経営学研究科は、教育の理念に従い、高度な研究者・専門家、専門的職業人に必要な能力を十分に修得したと認定しうる学生に対して修士の学位を授与する。具体的には、下記の3つの能力を身につけ、修士課程に2年以上在学し、経営学研究科が定める科目の単位を30単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。

DP：ディプロマ・ポリシー

	専門分野の知識や技能の活用力
(DP1)	経営学分野に関する高度専門的な学識と幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、専門分野における先導者として、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に対応するだけでなく、積極的に新たな価値を創造・提案し、地域社会・国際社会・産業界に還元していくことができる。
	情報分析、課題設定および問題解決能力
(DP2)	経営学分野における基礎的な知識や先行研究を踏まえ、自ら主体的に課題を設定する力と、さらに専門的な情報を収集・分析して適正に判断・思考しながら、問題解決までの道筋を論理的に展開できる実行力や新たな知見を見出す能力を兼ね備えている。
	コミュニケーション能力
(DP3)	論文作成やプレゼンテーションを通じて、自らの考えを論理的かつ明確に伝えると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切なツールや手法を用いて世界に向けて自らの考えを発信することができる。

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

経営学研究科修士課程では、「修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げた3つの能力を養成するために、経営学、マーケティング、会計学、経済学、経営科学の各専門分野の科目からなる教育課程を編成する。科目としては、コースワークのための講義科目とリサーチワークのための演習科目を設ける。さらに、専門研究において要求される外国語の学力向上に資するために、外国文献研究の科目を設置するとともに、専門職業会計士などの試験志望者のために、会計学の隣接科目として租税法に関する科目(講義と演習)を設置する。情報化社会の無限に溢れる情報から論文盗用等が行われないよう、カリキュラムのすべての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成も図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、研究を行う上での理論的・実践的基盤を築くことができるように、専門分野での基礎力および学術研究技術の基礎を涵養する。
- 2) 演習科目では、専門領域・研究課題に応じて修士論文の作成上必要とされる教育や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。
- 3) 修士論文の水準を向上させるために、2年次に修士論文合同研究会(中間報告会)を行う。
- 4) 上記1～3の集大成として完成させた修士論文について、審査および最終試験を実施する。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、基礎的な研究手法や研究能力を体得できるように、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 修士論文の作成指導では、教員と学生の間で「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションを取る。
- 3) それぞれの授業科目の組織的な履修を促すことにより、専門性を追求しながらも狭量な思考に偏らないよう、指導教員を中心に指導を行う。
- 4) 修士論文の審査にあっては、主査1名と副査2名で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査を行う。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力を身につけていることを詳細に確認する。
- 5) 研究倫理教育は、一般的な内容についてはeラーニングなどの方法を用いて行い、経営学分野特有の研究倫理については研究指導を通じて指導することにより補完する。
- 6) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって、教育内容および教育方法について継続的な検証を行い、その結果を積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 教育課程に対する評価

修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)の3つの方針(ポリシー)に基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、経営学研究科における学修成果の測定・評価を行う。具体的には、以下について測定・評価を行う。

- 1) 入学試験の結果および入学時点で提出された研究計画書に基づき、学生の知識・能力に合った適切な教育・指導が行われたかについて
- 2) 入学後に作成された研究計画書に従って研究が行われ、計画段階で目標とされた内容・レベルの修士論文を完成することができたかについて
- 3) 修得単位数やその成績がディプロマ・ポリシーで目標とする水準に達しているかについて
- 4) 修了後の進路が修士課程における教育と研究指導の成果を十分反映したのになっているかについて

● 修了の要件

1. 修士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 各年次の履修単位数は原則として、1年次は指導教員の演習4単位を含む20単位以上30単位未満とし、2年次は指導教員の演習を含む4単位以上とする。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の演習4単位	22単位以上	30単位以上
2年次	指導教員の演習4単位		

● 履修上の注意

1. 履修科目の選択にあたっては、指導教員の指導を受け、研究テーマに関連の深い全科目にわたって履修すること。
2. 指導教員が必要と認めた場合には、他専攻の講義科目の中から10単位を上限に履修することができる。なお、他専攻履修をする場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。
3. 他専攻修得単位・留学により修得した単位は合計10単位を上限として、修了に必要な単位として認定することができる。
4. 他系統学部出身者には、当該専攻の基礎学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため、大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合、学部で開講している関連基礎科目の特別履修を課すことがある。ただし、関連基礎科目の単位は認定しない。
5. 一度単位を修得した科目は、担当者が異なっても再度履修することはできません(指導教員の演習科目を除く)。

● 学位論文について

〈中間発表・報告会〉

修士2年次の11月に修士論文合同研究会(中間発表会)を専攻全体で行う。時間はひとり30分で、研究の中間報告(プレゼンテーション)、専攻の教員および参加者による質疑応答を行い、最後に、参加者を代表して指導教員が講評する。

〈学位論文審査基準〉

1. 研究テーマの独自性
2. 当該研究の社会的・国際的意義
3. 文献・資料の明確な引用
4. 先行研究を踏まえた独自の視点での論点整理
5. 論旨の一貫性

〈論文審査・学識確認〉

審査員は主査1名、副査2名で構成され、副査には必要に応じて他の専攻、大学、研究所などに所属する専門家を含むことがある。最終試験は、提出された論文を踏まえ、審査員が、口頭試問形式により学識確認を行う。上記審査基準により、主査・副査が点数を付け、その平均点をもって修士論文の評点とする。成績評価は履修科目と同様の基準で付される。

なお、論文作成要領・提出要領と、提出された論文の取扱いについては、21ページ以降を参照すること。

● ルーブリック【修士論文・課題研究】

DP	評価項目	評価の視点	S	A	B	C
	1) 研究テーマの独自性	研究テーマが独自である	研究テーマがきわめて独自である	研究テーマが独自である	研究テーマがさほど独自ではない	研究テーマが独自であるとはいえない
	2) 当該研究の社会的・国際的意義	社会的・国際的意義が大きい	社会的・国際的意義がきわめて大きい	社会的・国際的意義が大きい	社会的・国際的意義がさほど大きくはない	社会的・国際的意義が小さい
	3) 文献・資料の明確な引用	文献・資料を明確に引用している	文献・資料をきわめて明確に引用している	文献・資料を明確に引用している	文献・資料をさほど明確には引用してはいない	文献・資料を明確に引用してはいない

DP	評価項目	評価の視点	S	A	B	C
	4) 先行研究を踏まえた独自の視点での論点整理	先行研究を踏まえて、独自の視点で論点を整理している	先行研究を踏まえて、きわめて独自の視点で論点を整理している	先行研究を踏まえて、独自の視点で論点を整理している	先行研究を踏まえて、さほど独自の視点で整理してはいない	先行研究を踏まえて、独自の視点で整理しているとはいえない
	5) 論旨の一貫性	論旨が一貫している	論旨がきわめて一貫している	論旨が一貫している	さほど、論旨が一貫していない	論旨が一貫しているとはいえない

● 開講科目

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備考
					DP1	DP2	DP3	
経営学史特講 a・b	講義	各2	前期・後期	中川 淳平	◎	○		
経営学史特講	演習	4	通年	中川 淳平	○	◎	○	
経営史特講 a・b	講義	各2	前期・後期	豊田 太郎	◎	○		
経営史特講	演習	4	通年	豊田 太郎	○	◎	◎	
経営管理論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	渡辺 伊津子	○	◎		
経営管理論特講	演習	4	通年	渡辺 伊津子	◎	○		
経営組織論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	日野 健太	○	◎	○	
経営組織論特講	演習	4	通年	日野 健太	◎	◎	○	
サービス経営論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	武谷 慧悟	◎	○		
サービス経営論特講	演習	4	通年	武谷 慧悟	◎	◎	○	
流通システム論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	青木 茂樹	◎	○		
流通システム論特講	演習	4	通年	青木 茂樹	◎	◎	○	
消費者行動論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	菅野 佐織	◎	○		
消費者行動論特講	演習	4	通年	菅野 佐織	◎	◎	○	
マーケティング論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	兼村 栄哲	◎	○		
マーケティング論特講	演習	4	通年	兼村 栄哲	◎	◎	○	
マーケティングコミュニケーション論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	中野 香織	◎	○	○	
マーケティングコミュニケーション論特講	演習	4	通年	中野 香織	○	◎	◎	
経営労務論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	鹿嶋 秀晃	◎	◎	◎	
経営労務論特講	演習	4	通年	鹿嶋 秀晃	◎	◎	◎	
経営科学特講 a・b	講義	各2	前期・後期	小沢 利久	◎	○		
経営科学特講	演習	4	通年	小沢 利久	◎	◎	○	
経営数学特講 a・b	講義	各2	前期・後期	飯田 哲夫	◎	○		
経営数学特講	演習	4	通年	飯田 哲夫	◎	○		
統計学特講 a・b	講義	各2	前期・後期	長 國強	◎	○		(本年度休講：在外研究)
統計学特講	演習	4	通年	長 國強	◎	○	○	(本年度休講：在外研究)
マーケティング・サイエンス特講 a・b	講義	各2	前期・後期	若山 大樹	◎	○		
マーケティング・サイエンス特講	演習	4	通年	若山 大樹	○	◎	◎	
財務会計論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	桑原 正行	◎	○		
財務会計論特講	演習	4	通年	桑原 正行	◎	◎	○	

第一章
第二章
第三章
仏教
国文
英文文
地理
歴史
社会
心理
経済
商
公法
私法
経営
論政経2022
年度前半
論政経2023
年度前半
GM2021
年度前半
GM2022
年度以降入学者
第四章

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備考
					DP1	DP2	DP3	
国際会計論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	河合由佳理	◎	○		
国際会計論特講	演習	4	通年	河合由佳理	◎	◎	○	
原価計算論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	岸田隆行	◎	○		
原価計算論特講	演習	4	通年	岸田隆行	◎	◎	○	
管理会計論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	猿山義広	◎	○		
管理会計論特講	演習	4	通年	猿山義広	◎	◎	○	
会計監査論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	田中智徳	◎	○		
会計監査論特講	演習	4	通年	田中智徳	◎	◎	○	
産業組織論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	齋藤都美	◎	○		
産業組織論特講	演習	4	通年	齋藤都美	○	◎	○	
企業と社会特講 a・b	講義	各2	前期・後期	村山元理	◎	◎	◎	
企業と社会特講	演習	4	通年	村山元理	◎	◎	◎	
日本経済史特講 a・b	講義	各2	前期・後期	中村一成	○	◎	○	
日本経済史特講	演習	4	通年	中村一成	○	◎	○	
経済政策特講 a・b	講義	各2	前期・後期	山邑紘史	◎	◎		
経済政策特講	演習	4	通年	山邑紘史	◎	◎	○	
金融論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	福田慎	◎	◎		
金融論特講	演習	4	通年	福田慎	◎	◎	○	
生産管理論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	藤原篤志	◎	○		(本年度休講：在外研究)
生産管理論特講	演習	4	通年	藤原篤志		○	◎	(本年度休講：在外研究)
現代企業論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	小本恵照	◎		○	
現代企業論特講	演習	4	通年	小本恵照		◎	○	
ベンチャー企業論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	小野瀬 拡	◎	○		
ベンチャー企業論特講	演習	4	通年	小野瀬 拡		○	◎	
経営戦略論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	中村公一	◎	○		
経営戦略論特講	演習	4	通年	中村公一	◎	◎	○	
租税法特講 a・b	講義	各2	前期・後期	柳綾子	◎	○	○	
租税法特講	演習	4	通年	柳綾子	○	◎	◎	1年次配当
租税法特講	演習	4	通年	柳綾子	○	◎	◎	2年次配当
中小企業論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	大田康博	◎	◎		
中小企業論特講	演習	4	通年	大田康博	○	○	◎	
企業分析論特講 a・b	講義	各2	前期・後期	塚原 慎	○	◎		
企業分析論特講	演習	4	通年	塚原 慎	○	◎	○	
日本経営史特講 a・b	講義	各2	前期・後期	山藤 竜太郎	◎	◎		
日本経営史特講	演習	4	通年	山藤 竜太郎	○	○	◎	
外国文献研究Ⅰ a (英米)	講義	2	前期	山藤 竜太郎	○	○	◎	
外国文献研究Ⅰ b (英米)	講義	2	後期	山邑 紘史	○	○	◎	
外国文献研究Ⅴ a・b (中国)	講義	各2	前期・後期	長 國強	○	○	◎	(本年度休講：在外研究)

◎：特に重視している ○：重視している

(2) 博士後期課程

● 目的

経営学研究科は、本学の建学の理念に基づき、経営学に関する高度で専門的な知識を有し、社会的にまた国際的に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

● 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

経営学研究科は、教育の理念に従い、研究者として自立して研究活動を行う研究能力やその基礎となる豊かな学識を十分に修得したと認定しうる学生に対して博士の学位を授与する。具体的には、下記の3つの能力を身につけ、博士後期課程に3年以上在学し、経営学研究科が定める経営学分野の科目の単位を12単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。

DP：ディプロマ・ポリシー

(DP1)	高度な専門分野の知識や技能の活用
	経営学分野に関する高度な専門的学識と幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、専門分野における先導者として、特定の学問領域を中心に広く社会へ向けて新たな知見や価値を創造・提案し、還元していくことができる。
(DP2)	情報分析、課題設定および問題解決能力
	自立した研究者として、独創的な観点から課題を設定し、専門的な学識や技能を用いながら継続的な研究遂行と研究結果の蓄積・収れんを行うことができる。また、最先端のツールや手法を駆使し、専門的な情報を収集するだけでなく、それらの分析によって、今までにない知見を導き出すことのできる高度な判断力を有する。
(DP3)	コミュニケーション能力
	学術論文執筆や学会発表などを通じて、自らの独創的な研究結果や新たな知見を国内外の学界に発信すると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切なツールや手法を用いて自らの研究業績を発信し、自ら導き出した新知見の社会的な活用や定着を模索することができる。

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

経営学研究科博士後期課程では、「修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げた3つの能力を養成するために、経営学と会計学を中核とした教育課程を編成する。科目としては、研究指導科目である「研究指導」と講義科目である「特殊研究」を設置する。また、課程を通じた研究の成果として提出される博士論文の審査基準を明確にし、博士論文の評価結果を基に、学位を授与された者がさらなる研究の向上・進展を図ることができるように指導を行う。情報化社会の無限に溢れる情報から論文盗用等が行われないよう、カリキュラムのすべての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成も図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 講義科目では、豊かな専門知識と研究能力のさらなる向上を目的として、先行研究の批判的検討、文献講読、実験指導、データ収集指導、論文作成等に関わる教授と指導を行う。
- 2) 研究指導科目では、専門領域・研究課題に応じて博士論文の作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、豊かな専門知識と発展的な研究能力を深化させ、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 研究指導では、課題設定の独創性、研究計画の妥当性や実現性について客観的に評価・助言し、学術論文や学会発表の指導を行い、博士論文作成に向けての研究業績を積み上げる。
- 3) 研究指導を中心とする、博士論文の作成指導においては、教員と学生の間で「提出要件」、「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションを取りながら実施する。
- 4) 講義科目と研究指導科目は単独のものではなく、有機的な関連をもって各学生の研究活動を支える。
- 5) 博士論文の提出については、指導教員が進捗状況だけでなく、研究科で定める「提出要件」を満たしていることを確認する。提出された博士論文の審査にあたっては、主査1名と副査2名で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査を行う。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力、語学力を身につけていることを詳細に確認する。
- 6) 研究倫理教育は、一般的な内容についてはeラーニングなどの方法を用いて行い、経営学分野特有の研究倫理については、研究者として自立して研究を遂行できるよう、研究指導を通じて補完する。
- 7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 教育課程に対する評価

修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、経営学研究科における学修成果の評価・測定を行う。具体的には以下について評価・測定を行う。

- 1) 入学試験の結果および入学時点で提出された研究計画書に基づき、学生の知識・能力に合った適切な教育・指導が行われたかについて
- 2) 学会発表や論文投稿によって研究成果の発信がなされているかについて
- 3) 入学後に作成された研究計画書に従って研究が行われ、計画段階で目標とされた内容・レベルの博士論文を完成することができたかについて
- 4) 修得単位数やその成績がディプロマ・ポリシーで目標とする水準に達しているかについて
- 5) 修了後の進路が博士後期課程における教育と研究指導の成果を十分反映したものになっているかについて

● 修了の要件

1. 博士後期課程に3年以上在学し、かつ、所定の科目(指導教員の講義)について12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 指導教員の講義と研究指導は、毎年履修するものとする。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の講義4単位および研究指導	修得単位は任意	12単位以上
2年次	指導教員の講義4単位および研究指導		
3年次	指導教員の講義4単位および研究指導		

● 履修上の注意

指導教員が必要と認めた場合は、選択科目として指導教員以外の講義を履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。

● 学位論文について

〈中間発表・公聴会〉

博士論文審査の一環として公聴会を行う。公聴会では、博士論文内容の発表、専攻の教員および参加者による質疑応答を行い、最後に、参加者を代表して指導教員が講評する。

〈学位論文提出要件〉

所定の時期に仮論題を提出し、受理されていること。

〈事前審査〉

9月末までに、履歴書、論文要旨を本論文(未完成でよい)に添えて提出すること。その後約1か月間、事前審査を行う。

〈学位論文審査基準〉

1. 研究テーマの独自性と新規性
2. 当該研究の社会的・国際的意義と当該研究分野の進歩への寄与
3. 文献・資料の明確な引用と適切な評価
4. 先行研究を踏まえた独自の視点での適切な論点整理と新たな知見の提示
5. 論旨の一貫性と論理的展開の明瞭性

〈論文審査・学識確認〉

審査員は、主査1名、副査2名以上で構成され、副査には必要に応じて他の専攻、大学、研究所などの専門家を含むことがある。上記の基準により、論文審査を実施する。最終試験は、審査員が、提出された論文に基づき、口答または筆答による学識確認を行い、外国語試験は予め申請した1か国語(母語は不可)で実施する。審査結果の報告は、研究科委員会において実施され、その要旨を公表する。

なお、論文提出要領等については、25ページ以降を参照すること。

● 開講科目

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備考
					DP1	DP2	DP3	
ベンチャー企業論特殊研究	講義	4	通年	小野瀬 拓		○	◎	
ベンチャー企業論研究指導	研究指導	—	通年			○	◎	
経営管理論特殊研究	講義	4	通年	渡辺 伊津子	○	◎		
経営管理論研究指導	研究指導	—	通年		○	◎		
経営組織論特殊研究	講義	4	通年	日野 健太	◎	◎	○	
経営組織論研究指導	研究指導	—	通年		◎	◎	○	
マーケティング論特殊研究	講義	4	通年	兼村 栄哲	◎	◎	◎	
マーケティング論研究指導	研究指導	—	通年		◎	◎	◎	
流通システム論特殊研究	講義	4	通年	青木 茂樹	◎	◎	○	
流通システム論研究指導	研究指導	—	通年		◎	◎	○	
財務会計論特殊研究	講義	4	通年	桑原 正行	◎	◎	○	
財務会計論研究指導	研究指導	—	通年		◎	◎	○	
管理会計論特殊研究	講義	4	通年	猿山 義広	◎	◎	○	
管理会計論研究指導	研究指導	—	通年		◎	◎	○	
生産管理論特殊研究	講義	4	通年	藤原 篤志	○	◎	◎	(本年度休講：在外研究)
生産管理論研究指導	研究指導	—	通年		○	◎	◎	
企業論特殊研究	講義	4	通年	小本 恵照	○	○	◎	
企業論研究指導	研究指導	—	通年		○	○	◎	
経営戦略論特殊研究	講義	4	通年	中村 公一	◎	◎	○	
経営戦略論研究指導	研究指導	—	通年		◎	◎	○	

◎：特に重視している ○：重視している